

社報「うむい」について

沖縄の言葉で「想い、願望、考え、所存」のことを「ウムイー」といい、戦争で亡くなっていった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の想いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。



両陛下がご参拝された日の「小桜の塔」(手前は献舞台)

まつり

記事 成夢

「鹿子じもの ただ一人子を捧げしと 護国神社に語る母はも」(昭和四十九年) 皇后陛下の御歌(境内歌碑)である。鹿は一年に二回二頭だけ子を産むことから「鹿子じもの」は「ただ二人の大切な子」を意味し、その大切な子供をお国に捧げて護国神社に祀られている息子に語りかけている母の姿が詠まれている。▼昨年遅ればせながら子供を授かることが出来た。抱きかかえる度にこの御歌を思い出し、我が子を戦場へ送り出す母の想いはいかばかりであったことかと思いをばせている。▼人間魚雷「回天」の創案者黒木博司少佐の母わきさんは「百人の人に笑われても一人の正しい人に誉められるよう、百人の人に誉められても一人の正しい人に笑われないようにしなさい」と育てたそうだ。そんな母は少佐が海軍機関学校に入学したときに、舞鶴は寒いだらうと息子の写真をコタツの中で温めていた。時に強く、時に優しい母の姿が見える。▼皇后様の御歌に詠まれた護国神社に語っていた母もまた同じように息子を教育し愛情を注いだであろう。▼筆者も母となりご英霊の想いを子供に伝え、ご英霊に恥じることのない日本人を育てて行きたいと身を引き締めている。

昭和19年8月26日(鹿児島県の悪石島沖で沈没) 1425人(内学童700名)

対馬丸問題をかえりみて

会長 座 喜味 和則



昭和十九年八月二十二日の対馬丸海没事件以後を回顧したい。沈没後の漂流屍体が奄美大島の大和村、宇検村、美久村にあり村民の手によって夫々埋葬し墓標を立て供養されていた。昭和二十五年に奄美大島支庁より那覇市役所に収容遺骨の名簿が届けられた。同年十月十五日に那覇市壺屋小学校で対馬丸遭難学童遺族総会が催された。この会合で、埋葬地調査のため関係者を派遣することが決定、十月二十六日遺族代表四名と沖縄民政府総務部の屋良事務官の五名が軍の貨物船で出発、各村役場の全面協力で十一月十七日遺骨百五柱を持参帰郷、氏名判明遺骨は三十一柱で他は氏名不詳。十一月二十五日に沖縄群島政府主催で合同慰霊祭を執行。慰霊塔候補地を折衝した

が都市計画その他の事情で結論を得ず引取人のなかった遺骨は「魂魄の塔」に合祀された。小桜の塔は昭和二十七年愛知県丹陽村すずしろ子供会河合桂会長が沖縄に子供のための慰霊塔が無い事から企画され愛知県

の学童の二円献金で二十万円が集まり愛知県において設計、資材が送られて昭和二十九年五月五日に那覇市に鎮座する護国寺境内に建立された。「小桜の塔」を管理し祭祀を行うための「小桜の会」(代表 浦崎康華)が組織された。昭和三十二年八月二十二日の慰霊祭後の遺族会で会名を「疎開船対馬丸遭難学童遺族会」と変更、会長に新里清篤氏(当時沖縄県教職員会事務局長)が選任された。「小桜の塔」が狭隘で祭典に不自由のため移転改修が決議され、遺族の拠金と全県の学童、教職員のカンパによって昭和三十四年六月九日に現在の慰霊塔が建立された。塔の正面を対馬丸船出の那覇港に向け悪石島の海岸の霊石が台座に張りつけられている。慰霊祭は毎年八月二十二日に行われている。

と沖縄遺族連合会山城篤男会長などの関連団体長名で日本政府及び琉球政府に文書による陳情を始めた。昭和三十五年より新里会長と沖縄遺族連合会金城和信事務局長(後に会長となるが上京してのアベック陳情が、厚生省、総理府、日本遺族会、沖縄協会及び多数の衆参両国会議員の先生方へ毎年巨りねばり強く続けられた。其の結果昭和三十七年九月に「遭難学童の遺族に対し二万円の見舞金支援」昭和四十一年十月に「遭難学童の靖国神社合祀」の実現を得た。昭和四十二年八月の遺族総会で「疎開船対馬丸遭難者遺族会」(学童の文字を除く)に名称変更して更なる陳情を続けた。昭和四十七年は沖縄の祖国復帰の年を迎えて「一般遭難者に対し三万円の見舞金支給」と「勲八等の勲記勲章の授与」が実現された。昭和五十一年は死没三十三年忌に当る。「準軍属の処遇実現」に総力をあげて陳情を続けた。政府のご理解により昭和五十二年四月より「対馬丸遭難学童の遺族会」に対して遺族年金の五割を遺族支出金として支給される事になった。以後五割支給を順次増率させる事が出来た。新里会長はこれからの処遇問題の実現を得て昭和六十一年三月に退任された。「船体引き上げ」は後任の喜屋武栄会長に託された。平成

九年十二月四日科学技術庁の無人探海探査機「かいこう」が悪石島の北方十キロ水深八百七十米の海底で対馬丸の可能性のある物体を探知、続いて十二日に探海探査機「ドルフィン3K」を海中に下し、午後二時三十二分に「対馬丸」を確認した。実に五十三年ぶりであった。「船体引き上げ」は同船が大正三年に建造されて八十五年を経て腐朽度がひどいので引き上げは無理との説明を受け断念せざるを得なかった。平成十一年八月に政府は遺族の慰藉事業として「対馬丸記念館」建設を提示された。沖縄県と対馬丸遭難者遺族会は慎重に検討を重ねて平成十三年一月十三日の臨時遺族総会にて財団法人化して記念館運営を引き受ける事が決議された。六月に国庫補助による「対馬丸記念館」建設が決定された。七月四日に「財団法人対馬丸記念会」会長上原妙が設立、平成十五年十月二十二日記念館起工式。平成十六年八月二十二日「対馬丸記念館」(館長 高良政勝)が開館して十年を迎えた。多数の方々の絶大なご支援、ご援助によって懸念の慰霊、処遇等を解決させていただき誠に感謝に堪えません。厚くお礼を申し上げます。(私は県遺族連合会で事務担当し平成四年よりは同会々長として関与致しました。)

戦いから七十年

宮司 加治 順人



今年六月二十六日から二十七日にかけて、天皇皇后両陛下におかれましては対馬丸殉難者への慰霊のため来沖され、小桜の塔ならびに対馬丸記念館へ行幸啓あそばされました。今回の訪問は陛下からの希望で実現されたものでした。

対馬丸は昭和十九年八月二十一日、鹿児島県悪石島沖で米軍の潜水艦から発射された魚雷によって轟沈され、長崎へ疎開するために乗船した学童七十八名を含む(四八五名の命が失われました。今から七十年前のことです。ちょうど同じ頃、南洋群島ではサイパン、テニアン、ペリリューなどの島々が次々と落ち、沖縄から開拓のため移住していた多くの方々の命も失われました。

先日、バラオ諸島へ家族で移民として渡り、疎開中に家族を失い沖縄に帰ってきた方が来社され、現地でもペリリュー島防衛のために現地召集されそのまま「行方不明者」となった兄上の消息を調べ手段の問い合わせをいただきました。わずかに十四歳でおそらくは戦死した兄の名督のため「戦没者」として手続きしてやりたいという想いに心を打たれ、あれこれ手を尽くしましたが七十

年の時の壁は厚く、残念ながら十分なお役に立つことはできませんでした。その調査の過程で、ペリリュー戦から生還された方にお目にかかる機会に恵まれました。苛烈な戦闘を経験された後、終戦を知らないまま二年半も墾壕生活を継続されたそうです。現在は那覇市内にお住まいの九十四歳。穏やかなお顔で商店を営んでおられますがペリリューの話になるや目に強い光が宿られたのが印象的でした。戦争から長い時間が過ぎましたが、今も当時のことは思い出したくないという方がいらつしやる一方、今になつてやうと話すごうである、話しておきたいという方や、前述のように事実を確かめたいという方がいらつしやいます。六月下旬にも、沖縄戦末期まで軍属として牛島満中將と行動を共にしたという九十歳を超えたご婦人が神社にいらつしやいました。その方は当時をたいそう懐かしげに、また詳細に語られ、これからのことを考え、今まで大切に生きてきた牛島中將のお写真を神社に奉納したいとのご希望でした。来年は終戦から七十年となります。戦争で亡くなつていった方々の想いを受け継ぎ、多くの方のさまざまな想いを受け止める神社でありたい、という思いを新たにしております。

新総代表挨拶 心のいやしを求めて

元沖縄県傷痍軍人会 会長 宮城 繁



比嘉良雄 前総代表 は名義長であつた。その後を受け

お断りすることはできなかった。微力ではあるが、頑張るしかないと思つた。護国神社はお国のために散華した英霊の安らぐところである。英霊と傷痍軍人は修羅場の戦場で生死を共に戦つた仲である。一方は尊い命を失い、一方は身体に傷を負い生きながらえてきた。傷痍軍人の中には時々又は慰霊の日が近づくと「自分一人生き残つて」と自責の念に駆られる者も多い。座喜味会長の言葉を借りれば、護国神社と傷痍軍人は切つても切れない強い絆で結ばれていると、全くその通りである。これら傷痍軍人達も寄る年には勝てず昨年十一月末日を以つて組織を解散した。幸い護国神社のお力添えで立派な「傷痍軍人夫婦像」を境内に建立することができた。この像は、傷痍軍人の心の拠り所であり世界の恒久平和を渴望するシンボルでもあ





第七回総代会
 八月六日、社務所大ホールに於いて第七回総代会が行われました。本年は第三期目の改選の年となり、再任十八名新任六名計二十四名での新体制となりました。

特別講演も行われました。この学生たちが平成の志士となりこの国を支えてくれること期待してやみません。

六月二十六、二十七日の両日、十度目となる天皇皇后両陛下の沖縄県行幸啓を仰ぎ、かしこくも当社へ幣饌料を賜りました。このことを御遺族崇敬者にご報告するべく、八月十五日のみたま祭りに併せて幣饌料御下賜奉告祭をご齎行申し上げました。

祭典始めには天皇陛下のお言葉をラジオから拝聴し、参列者全員で君が代を斉唱しました。続いて雅楽の演奏が流れるなか本殿の御扉が開かれ幣饌料が供えられました。そのあと祝詞が奏上され、共催の英霊にこたえる会沖縄県本部による祭文が奏上されました。最後に御扉が閉られ、後援の日本会議沖縄県本部中地昌平会長により閉会の辞が述べられました。

さらに、祭典後に社務所ホールに移動し第二部の行事として、「天皇皇后両陛下沖縄行幸啓報告」と題し報告会が行われました。座喜味会長が幣饌料伝達式の報告、宮

（秦宗文幹事長）より御奉茶を戴きました。そして巫女による「みたま慰めの舞」が奉奏されお御霊をお鎮め申し上げました。

祭典終了後は直会を兼ねご参列の方々にご出席頂き「新宮司就任を祝う会」を社務所ホールにて催しました。沖縄のご祝儀舞の「かじゃで風」に始まりスピーチなどを賜り、最後はお決まりのカチャーシーを皆で踊り新宮司をお祝い致しました。

沖縄全戦没者慰霊祭
 六月二十三日は慰霊の日で沖縄県は休日となっています。今年もこの日を迎え、一年の中で重要な慰霊祭の一つとして厳粛にご齎行申し上げました。

祭典では祝詞奏上のあと昨年に続き声楽家の鶴澤美枝子氏による「君が代」「螢の光」の奉納がありました。参列者はその力強い歌声

に感動、しばしご英霊と心通わせました。また、祭典前には東京都の宮下覚詮氏による法螺貝の奉納演奏や、沖縄のシンガーソングライター蜂嶺元治氏による童謡「ふるさと」ほか二曲の歌唱奉納もありました。

一方、糸満市摩文仁の平和記念公園においては、県主催の「沖縄全戦没者追悼式」が毎年執り行われております。テレビでもその様子は放送されており、首相を始め各界からのご参列があります。とりわけ本年はキャロライン・ケネディ米駐日大使のご参列もあり県内は厳重な警備体制となりました。

御遺族の方々の中には摩文仁の追悼式にご参列されたのち、当神社へ各々お参りにお越しになりました。しかしながら近頃はご参拝も少なくなってきたように思います。

地元大学生による英霊顕彰祭齎行
 そんな中この日の午後、沖縄の大学生が主催する「殉国沖縄学徒顕彰六十九年祭」（実行委員長野田拓志君 琉球大学三年生）が加治宮司齎主のもと齎行されました。

この顕彰祭は、金城和彦先生が代表となって昭和三十七年から「殉国沖縄学徒顕彰会」を主催しており、毎年六月二十三日に靖国神社において齎行されてきた祭典で、



幣饌料を供える宮司

司から御礼を申し上げに宮内庁へ参内したことがそれぞれ報告されました。そして、両陛下のご訪問先であった対馬丸記念館でご案内役を務められた、対馬丸記念館常務理事の外間邦子氏から貴重なご報告を拝聴させて頂きました。

【講演録P6～P9掲載】

総代表	宮城 繁	再任
総代副代表	松島寛行	再任
総代	高袋秀子	再任
	大嶺正光	再任
	當山幸宏	再任
	大城竹明	新任
	瑞慶山良祐	新任
	翁長正秀	新任
	宮城篤正	再任
	中地昌平	再任
	國吉信雄	新任
	藤田博久	新任
	大城宗憲	再任
	山内昌宏	再任
	長濱文子	再任
	淵辺美紀	再任
	赤嶺和雄	再任
	糸数弘和	再任
	友利日出夫	再任
	秦 宗文	再任
	熊谷フサ子	再任
	新垣幸子	新任
	垣花 恵蔵	再任
	仲地良彰	再任
	奥武山公園運営管理事務所長	再任

春季例大祭



大祭委員長以下参進



御呈茶



カチャーシー

四月二十二日、宵宮祭を齎行申し上げ、翌二十三日午後一時「第五十六回春季例大祭」が加治新宮司のもと厳粛に齎行されました。

午前中は雨に見舞われましたが、祭典開始時間には新しい宮司を祝うかのよう澄み渡り晴天に恵まれました。参列の御遺族は正午前から参集し、お弁当を召し上がった後、毎年振る舞われる茶道裏千家淡交会の皆様による御呈茶を戴いたりしながら、恒例の「田場盛信民謡ショー」で祭典開始までのお時間をお楽しみ頂きました。

祭典では「国の鎮め」の曲に合わせてご英霊に黙祷を捧げ、国歌斉唱しました。宮司の祝詞が奏上され、続いて大祭委員長座喜味和則氏、沖縄県遺族連合会会長照屋苗子氏の祭文が奏上されました。また茶道裏千家淡交会沖縄支部

（秦宗文幹事長）より御奉茶を戴きました。そして巫女による「みたま慰めの舞」が奉奏されお御霊をお鎮め申し上げました。

祭典終了後は直会を兼ねご参列の方々にご出席頂き「新宮司就任を祝う会」を社務所ホールにて催しました。沖縄のご祝儀舞の「かじゃで風」に始まりスピーチなどを賜り、最後はお決まりのカチャーシーを皆で踊り新宮司をお祝い致しました。

沖縄全戦没者慰霊祭
 六月二十三日は慰霊の日で沖縄県は休日となっています。今年もこの日を迎え、一年の中で重要な慰霊祭の一つとして厳粛にご齎行申し上げました。

祭典では祝詞奏上のあと昨年に続き声楽家の鶴澤美枝子氏による「君が代」「螢の光」の奉納がありました。参列者はその力強い歌声

に感動、しばしご英霊と心通わせました。また、祭典前には東京都の宮下覚詮氏による法螺貝の奉納演奏や、沖縄のシンガーソングライター蜂嶺元治氏による童謡「ふるさと」ほか二曲の歌唱奉納もありました。

一方、糸満市摩文仁の平和記念公園においては、県主催の「沖縄全戦没者追悼式」が毎年執り行われております。テレビでもその様子は放送されており、首相を始め各界からのご参列があります。とりわけ本年はキャロライン・ケネディ米駐日大使のご参列もあり県内は厳重な警備体制となりました。

御遺族の方々の中には摩文仁の追悼式にご参列されたのち、当神社へ各々お参りにお越しになりました。しかしながら近頃はご参拝も少なくなってきたように思います。

地元大学生による英霊顕彰祭齎行
 そんな中この日の午後、沖縄の大学生が主催する「殉国沖縄学徒顕彰六十九年祭」（実行委員長野田拓志君 琉球大学三年生）が加治宮司齎主のもと齎行されました。

この顕彰祭は、金城和彦先生が代表となって昭和三十七年から「殉国沖縄学徒顕彰会」を主催しており、毎年六月二十三日に靖国神社において齎行されてきた祭典で、



ここ沖縄でも少人数ながら地元大学生が、我が国の現状に憂い英霊顕彰すべく昨年より齎行しています。大変意義深い顕彰祭です。

祭典では、沖縄学徒の遺文の奉読、また祭文が奏上されました。そのあと参列者全員で「沖縄に捧げる歌」を奉唱しました。改めて若くして亡くなられたご英霊に参列者一同想いを偲ばせました。

また、慰霊祭前には社務所ホールに於いて同会主催の「第四回島守・防人に感謝する集い」が行われ、英霊にこたえる会沖縄県本部会長仲宗根義尚氏（当時）が沖縄戦体験者、遺族代表として挨拶されました。さらに、波上宮欄宜で元靖国神社広報課長の大山晋吾氏による

学童疎開船「対馬丸」撃沈から七十年 両陛下沖縄県十度目の行幸啓

平成二十四年十一月、天皇后両陛下九度目の沖縄県ご訪問の提灯大行列より興奮醒めやらぬ本年六月二十六、二十七の両日、再び沖縄県へと十度目の行幸啓を仰ぎました。両陛下が降り立たれた沖縄は「一気に梅雨明けし、真つ青な空がお迎え致しました。ご到着後は先ず、南部戦跡へご参拝に向かわれました。また、この度の行幸啓は慰霊の旅で、とりわけ対馬丸撃沈から七十年ということで対馬丸の慰霊碑である「小桜の塔」(那覇市)へのご参拝、続いて対馬丸記念館をご訪問遊ばされました。当社では対馬丸記念館で両陛下の御案内役をされた同記念館常務理事の外間邦子氏に、八月十五日の「みたま祭り並びに天皇后両陛下幣饌料御下賜奉告祭」齋行後の報告会の中で、その時の様子などを含め対馬丸のお話を戴きました。本誌にて講演内容を掲載させていただきます。



それでは始めに、学童疎開船対馬丸について少しご説明させていただきます。昭和十六年十二月八日に、日本軍がハワイの真珠湾にあるアメリカ海軍の基地を攻撃し大東亜戦争が始まりました。日本軍は、はじめ優勢に勝ち進んでいましたが、開戦から半年後には敗戦を重ねるようになりまし。昭和十八年になりますと、兵力不足を補うため、学徒出陣によって旧制中学生や、大学生も戦場へ送り出されるようになって参ります。そして昭和十九年七月七日、アメリカ軍が日本領土へ攻め込むのを防ぐ砦として、とても重要な沖縄に近いサイパンがついに占領されてしまいます。サイパンにいた沖縄の人も六千人犠牲になったといわれております。サイパンが占領され「次は



対馬丸撃沈事件証言者

外間邦子

対馬丸記念館常務理事
英霊にこたえる会沖縄県本部監事

ほかま くにこ
昭和13年 那覇市出身
対馬丸記念館に入るとすぐに二つの小さなランドセルが展示されている。このランドセルは対馬丸に乗って命を落とした外間氏の二人のお姉さんのもの。当時国民学校に通っていた美津子さん10歳、悦子さん8歳姉妹の遺品。ランドセルは対馬丸と別の船に乗せられていたため家族のもとに戻った。この遺品を通して平和学習を何度も行ってきた。この対馬丸記念館が、当時の子供と現在の子供の出会いの場にしたいと願っている。

で、小学校の校舎が急遽兵舎として使用されました。こうして学童疎開が始まって行きました。しかし、子ども達の両親は疎開に躊躇してなかなか応じてくれませんでしたので、先生方は「海は戦争かも知れないけど子供たちを安全な軍艦で九州に疎開させるからそこは心配ない、来年の三月にはこの戦争が終

わっているから半年の辛抱なので急いで疎開させて下さい」といって各家庭を訪問し親御さんに説得しました。こうしていよいよ昭和十九年八月二十一日、対馬丸は学童約八百人、一般約八百人、計一六六一名の疎開者を乗せて那覇港を出港しました。しかし、その時すでに沖縄周辺の海は船が何隻も沈められとても危険な状況になっていました。そして翌八月二十二日午後十

時過ぎ、アメリカ潜水艦ボーフィン号の魚雷攻撃を受け、ついに撃沈させられてしまうのです。対馬丸が運が悪かったのは上海から沖縄に兵隊を運んできた船だったということで、ボーフィン号はずっと尾行していたことでした。いつか沈めてやろうと思っていた船だったというわけですね。ヤマトへ行けば、汽車にも乗れるし、雪も桜も見ることができると夢や希望を持って乗った対馬丸は無念にも海底に消え、子ども達の夢や希望とたくさん未来も一緒に沈められてしまいました。

あれから七十年が経ちました。この度なぜ天皇后両陛下が小桜の塔をご参拝なされたかと申しますと、天皇后陛下は昭和八年のお生まれで、五年生の時に学童疎開をなされました。また、皇后陛下も学童疎開をなさっておられます。両陛下は同じ時代に戦争の辛い体験をなされております。夢と希望をもって乗った対馬丸が悪石島の海底に沈められた事に心を痛めら

れ、対馬丸に深い想いを寄せられたとのことです。さらに、天皇后陛下は皇太子時代に「外間守善先生より、琉球の歴史や琉歌などのご進講を受けておられ、その際に対馬丸で犠牲になった外間先生の妹さんのお話も聞きになられていたのではないかと思います。陛下は、「いつの日か同じ世代で同じ時代に生きた対馬丸の子ども達の慰霊を・・・」と思われ、この度の行幸啓に繋がったのではと推察しております。

そして、両陛下のご来県が決まり小桜の塔にご参拝頂くことになりました。ご参拝頂く際にただ台の上に献花頂くだけでなく、遺族としてもっと深い想いで迎えたいという気持ちでございましたので、献花台の上にレース編みを敷く事に致しました。このレース編みは、疎開を引率した唯一現在も生存者である当時那覇国民学校の糸数先生(訓導)にお願いして編んで頂きました。先生に両陛下がお見



ういう姉でした、私の母はこういう母でした」と亡くなった一人一人の事をお話されるのです。亡くなられた方がどんな方で、お元気なころどういう方だったかとか、子供の頃ヤンチャでわんぱくでというお話をあたかも今生きているかのようにお話をされました。今までは慰霊祭などでただ顔を合わせるだけでした

が、私は今回の行幸啓で本当の意味で遺族としてしっかり一人ひとりと向き合せて頂くことが出来ました。そして、亡くなられた方々の魂を呼び起こすことが出来たのではないかなと感じております。もし行幸啓がなければ私たちは単なる生存者、単なる遺族として慰霊祭を肅行するのみでしたが、亡くなられた方々に寄り添い全員の心が一つになり慰霊することが出来ました。また生きがいとなりました。」と不敬を承知でこう申し上げたのです。

本来ならば両陛下からご質問を受ける立場なのですが、両陛下も深くうなずいて下さいましたのでほっと致しました。

すると皇后陛下が先ほどの献花台に敷いていたレースの事を心に留めておられたのでしよう、部屋の脇台の上のレース編みを手にとられ、「あー、先ほどの献花台と同じレース編みですね。」とおっしゃられました。実はここにもレース編みを敷いておりました。この温か

いお言葉を賜り私は「教え子を亡くし、辛く長かった七十年も両陛下の慰霊で救われたのではないでしようか。」と申し上げると、両陛下も大きくうなずかれました。

この度の行幸啓は、両陛下が対馬丸の子ども達に手をひかれてご参拝なさったのではとそんな想いをしております。高齢になった遺族の皆さんも「おみやげ話が出来ました。亡くなった子ども達に両陛下のお話をすることが出来ます。長生きしてよかったです。」と話されております。

行幸啓のお陰で、対馬丸の子ども達に対し両陛下のお心深い思いを賜ることができ、感謝しております。これから私たちは、対馬丸を通じて平和を願い、二度と対馬丸の子ども達のように未来を奪われる子どもを出さないよう八十年に向け船出して参りたいと思います。これでご報告を終わらせていただきます。御静聴ありがとうございます。(本稿は平成二十六年八月十五日日報告会でのほぼ全文です。)



両陛下と生存者・遺族との懇談(対馬丸記念館にて)

※外間 守善 那覇市出身
大正十三年十二月六日、平成二十四年十一月二十日
日本の言語学者、沖縄文化研究者、沖縄最古の歌謡集「おもろさうし」などの研究で知られる。(P7)



両陛下をご案内する外間氏

えになるのでは是非一緒にお迎えして頂けませんかと申し上げると、先生は「自分は盲腸の子がいて医務室にいたため偶然助かりましたが、自分のクラスの子が全員亡くなっています。私は子供たちに会わず顔がない、そして御遺族にも会わず顔がありませんので今回はご遠慮致します。」と申されました。この先生は七十年間こういう想いで過ごされてきたのです。そしてお迎えできない代わりにひと針ひと針想いを込め、子供たちに両

手を合わせるつもりで編んで下さいました。先生は九十歳になられるのですが、三月から一生懸命編まれメートルほどの白いレース編みが完成しました。先生はこれで自分の気持ちが子供たちに伝わったかなとおっしゃってられました。こうして、このレース編みを献花台の上に敷かせて頂きまして、両陛下はその上に無事献花をされました。(表紙・P9写真参照)

両陛下は、すぐにこれにお気づきになられ、先導していた対

馬丸記念館の高良理事長が経緯を申し上げるととても感動した様子だったと伺っております。

それから両陛下は小桜の塔後にされ対馬丸記念館へお進みになられました。記念館では遺族でお迎え申し上げ、両陛下は展示をご覧になられた後、遺族八名、生存者七名、計十五名とご懇談をされました。

両陛下は一人一人にお言葉をおかけ下さいましたが、それぞれに同じお言葉はおかけになりませんでしたが、一人一人に想いを込めてご質問下さり、それにお答え申し上げるとまたそれにといい感じ、耳元でやさしくお声をおかけになられたりしてお話し下さり、宮内庁の方からもお時間ですと急がされても一切お聞きにならずに十五名全員としっかりご懇談頂きました。そして、十五名とお話を終えられてもうお時間かなと思いましたが、また最前列の方のところに進まれて、さらに「お身体を大切に」とまた一人一人にお声かけをされて、ようやく

会場を後にされました。私は間近でその光景を拝見させて頂き、両陛下のお姿がまるで遺族の方を抱きかかえるような感じに見えました。あれから一か月以上経ちますが、私は今でも両陛下に優しさを通り越して言葉では表せないほどの大変な感動を覚えております。

ご懇談を終えられた両陛下は御休憩室にお入りになられ、その場に理事長と私しが呼ばれました。理事長(ご家族十一名が乗船、九名が犠牲)も私も遺族なので、「多分家族の事をお聞きになるのでは。」と思われましたが、私の方はその時すでにとても感動しております、この度の懇談に際しお迎え頂く十五名のご遺族や生存者の方を選ばせて頂くのにご遺族と電話でお話した時のことを、どうしても両陛下にご報告せずにはおれず、その旨を次のようにお話しいたしました。

「私がこの度のご懇談にご参加頂けませんかとお電話すると、ご遺族は決まって『私の姉はこ

社務日誌抄

平成二六年四月〜平成二六年九月

- 4月**
- 6日 茅原書藝會創立三十周年記念式典局長出席
 - 9日 大阪府遺族連合会自由参拝
 - 10日 宮内庁へ就任報告記帳(加治新宮司)
 - 19日 龍馬プロジェクト自由参拝
 - 22日 沖宮例大祭宮司参列
 - 22日 宵宮祭
 - 23日 第五十六回春季例大祭
 - 23日 宮司就任を祝う会
 - 24日 全国敬神婦人連合会正式参拝
- 5月**
- 1日 沖繩県神道青年会御田植祭 同会会員職員参加
 - 5日 茅原書藝會正式参拝
 - 5日 生天光神明宮例大祭 宮司参列
 - 10日 沖繩県祖國復帰四十二周年記念大会宮司出席
 - 13日 全国神社諸社連合会 五月会正式参拝
- 6月**
- 3日 滋賀県遺族会自由参拝
 - 10日 しづたまの碑慰霊祭 宮司奉仕
 - 13日 旧海軍壕慰霊祭宮司参列
 - 22日 海上挺身隊慰霊祭 西谷権宜奉仕
 - 22日 勇魂の碑慰霊祭宮司奉仕
 - 22日 埼玉県遺族連合会一九九名正式参拝
 - 23日 沖繩全戦没者慰霊祭
 - 23日 殉国沖繩学徒顕彰六十九年祭
 - 24日 天皇皇后両陛下沖繩行幸啓
 - 25日 安泰祈願祭
 - 25日 平成二十六年度第二回責任役員会
 - 26日 天皇皇后両陛下沖繩県行幸啓(二十七日まで)に際し幣料(伝達式)沖繩ハービーユ一
- 7月**
- 19日 皇室崇敬会 神道文化賞 表彰伝達式
 - 30日 水無月大祓式
- 8月**
- 6日 第七回総代会
 - 11日 英霊にこたえる会沖繩県本部総会
 - 15日 終戦記念日みたま祭り並びに天皇皇后両陛下 幣料御下賜奉告祭
 - 17日 表千家同門会沖繩県支部 正式参拝
 - 18日 群馬県遺族の会青少年派遣団 九名正式参拝
 - 20日 沖繩県神道青年会抜穂祭 同会会員職員参加
 - 22日 小桜の塔慰霊祭会長参列
 - 29日 沖繩二十一世紀ビジョンの早期実現を求める県民の会 発会式宮司出席
 - 31日 自由民主党参議院議員 宇都隆史様正式参拝
- 9月**
- 2日 靖国神社村田福宜正式参拝
 - 8日 那覇中学校二年生 総合学習の為来社
 - 15日 識名宮御社殿造営奉祝大祭 宮司参列 木村権宜奉仕
 - 19日 沖繩県神社庁大祭 始祭宮司参列 前原、高良 両権宜奉仕
 - 19日 参議院議員 西村眞吾様 正式参拝
 - 20日 霊友会第八支部 正式参拝
 - 21日 「日本再生の会」正式参拝 沖繩二十一世紀ビジョンの早期実現を求める県民の会 講演会宮司出席
 - 29日 沖繩県神社庁研修会前原、高良両権宜参加



4月24日全国敬神婦人連合会(北白川慶子会長-神社本庁統理御令室)の御一行が当社社をご参拝下さいました。参拝後に社務所にてお休み頂き会長と宮司がご挨拶申し上げました。また、義母にあられる北白川祥子様は昭和34年当時靖国神社奉賛会会長で、当社社再建前の境内が荒廃していたところにお越しいただいております。そのころに当社社を詠まれた御歌が現在拝殿に掲げられております。



9月8日、自分たちの住んでいる地域にどんな文化や歴史があるのか調査し学び、関わりについて理解を深める学習として那覇中学校の1年生の女子学生4名が神社を訪ねてくれました。お礼に巫女舞を見学して頂きました。女子学生は初めて見る舞に目を輝かせ真剣に見入っていました。

永代命日慰霊祭のご案内

永代命日慰霊祭はご遺族からのお申込みにより行われます。

ご命日の午前十一時より宮司斎主により斎行される慰霊祭です。

お申し込み後はご命日に毎年ご参列のご案内を致します。また年一回発行の社報をお届け致します。沖繩戦で散華されましたご英霊を永代に亘りお慰め致します。

※申込み初穂料として二万円以上をお納め頂きます。お問い合わせ

○九八八五七二二七九八(沖繩県護国神社社務所)

永代慰霊命日祭新規申込者

大阪府寝屋川市 細田 拓彦様
高知県南国市 島村 芳男様

奉納者御芳名

平成二六年四月〜平成二六年九月(社務日誌掲載以外・順不同)

永代慰霊命日祭御供

愛知県大山市 吉野 幸雄様
北海道札幌市 天野 喜美様
埼玉県鴻巣市 菊地 周一様
岐阜県岐阜市 江崎 明美様
岐阜県美濃市 額 信義様
神奈川県鎌倉市 関 政子様
北海道札幌市 櫻井 朋子様
三重県志摩市 杉木 茂樹様
北海道札幌市 清野 涼子様
北海道札幌市 吉川 つや様
北海道札幌市 櫻田 スミ子様
北海道札幌市 長野 洋子様
岩手県花巻市 瀬川 タエ様
愛知県豊橋市 杉浦 文子様
千葉県八街市 黒木 陽一郎様
北海道札幌市 岩井 川君子様
北海道函館市 伊藤 和子様
北海道函館市 岡部 典子様
福島県喜多方市 田中 昭二様
岡山県津山市 石川 好歳様
鹿児島県鹿児島市 吉永 恵子様
北海道旭川市 阿部 トキ様
愛知県豊明市 平野 克己様
北海道札幌市 大田 米一様
北海道札幌市 沼田 栄二様
北海道札幌市 瀬名 波長宏様
徳島県阿南市 幸田 純子様
北海道札幌市 十良 澤義治様
北海道札幌市 北村 孝子様
宮城県黒川郡 菅原 義則様
東京都調布市 米澤 務様

愛知県豊橋市 小野 よし子様
神奈川県横浜市 松本 敬子様
愛知県一宮市 後藤 修士様
滋賀県栗東市 堀池 四郎様
千葉県市川市 松永 修巳様
茨城県取手市 大塚 幸男様
高知県南国市 西原 常子様
滋賀県甲賀市 宿谷 長次様
北海道網走郡 成田 宏様
岐阜県下呂市 熊崎 つや様
北海道札幌市 中村 三郎様
北海道札幌市 加藤 勤様
熊本県熊本市 松尾 雪子様
三重県伊勢市 外山 とめ様
愛知県豊橋市 浅野 純子様
沖繩県那覇市 新垣 信正様
沖繩県那覇市 与那嶺 文子様
神奈川県座間市 横山 モト様
福井県福井市 野阪 重信様
岡山県久米郡 布野 芳子様
北海道函館市 川口 公昭様
鳥根県雲南市 勝部 昇様
愛知県海部郡 岡田 昌久様
東京都江戸川区 加藤 恵一様
愛知県津島市 村井 洋子様
三重県伊勢市 静岡県藤原郡 小坂 シゲ様
群馬県高崎市 江積 栄一様
京都府八幡市 齊藤 金蔵様
大阪府池田市 島村 美哉子様
北海道札幌市 高田 長巳様

玉串料

大阪護国神社 宮司 柳澤 忠磨様
東京都練馬区 佐々木 真太郎様
大蔵神社 宮司 岩澤 幸彦様
沖繩県那覇市 前盛 初枝様
奈良県吉野市 一憲様
東京都世田谷区 岩井 富子様
靖国神社 岩井 富子様
特定非営利活動法人ありがとう様
京都府福知山市 武田 一子様
千葉県市川市 松下 美枝子様
大阪府大阪市 濱田 耕一様
千葉県松戸市 内田 みや子様
ロンドン ジョセフ・パーク様
沖繩県糸満市 信子・パーク様
沖繩県糸満市 上原 勉様
岐阜県岐阜市 玉田 充様
沖繩県那覇市 伊波 苗子様
埼玉県護国神社 山田 信之様
埼玉県桶川市 白田 智子様
長野県松本市 堀内 淳次様
岩手県八幡平市 三浦 日出子様

物品

神酒 (株)久米島の久米仙様
神酒 田村 君江様
神酒 伊波 苗子様
鶏卵 沖繩鶏卵販売(株)様
鮮魚 居酒屋「翔」様
看板幕 (株)ミナミ商事様
紙芝居 (株)グランドストラテジー様

DVD

- 「天皇皇后両陛下下行幸啓記録」 天皇陛下奉迎活動報告集
- 「対馬丸慰霊の大御心」 天皇陛下奉迎 沖繩県実行委員会様

DVD

- 「靖国神社の祭り」ところ」 靖国神社様

書籍

- 「映すは君の若き面影」 著者 笹 幸恵様
- 「カウラ捕虜収容所」 著者 笹 幸恵様
- 「日本兵脱走事件」 広島経済大学岡本ゼミナール編 岡本 貞雄様
- 「当銘正幸コレクション」 調査報告書並びに「手縫い職人のカンビ」 著者 熊谷フサ子様
- 「武士道のこころ」 名越二荒之助 著 名越二荒之助先生を顕彰する会様
- 「魂の健康の為にII」 茅原 南龍様
- 「楠公回天祭五十年誌」 回天楠公社奉賛会様

今後の主な祭典のご案内

- 12月23日 天長祭
- 12月31日 大祓式・除夜祭
- 1月1日 歳旦祭
- 2月11日 紀元祭
- 4月23日 第57回春季例大祭

どなたでもご参列できます

平成27年は終戦70年 やすくにの心を後世に 靖國神社ご参拝のご案内

遊就館は
特別展
公開中!!

現在靖國神社では、終戦70年の特別参拝を行っております。また、遊就館に於きましては『大東亜戦争七十年展』と題した特別展が行われております。来年の3月21日より特別展シリーズ第4弾の最終章〜今を生きる全ての人〜が始まります。沖縄作戦を始め硫黄島作戦、本土防空戦、終戦という昭和20年の本土防衛作戦の内容を主として取り上げており、記録映像として沖縄県のご遺族や戦友の方々の生のお声も収録されており上映されます。ぜひこの機会に靖國神社へご参拝下さいませようご案内致します。

※なお、現在は 特別展シリーズ第3弾
〜後に続くを信じて 次代へ 結ぶ民族の誇り〜 開催中!!

12月7日(日)
まで

—靖國神社遊就館—

開館時間 9:00～16:30(入館は30分前)

拝観料 常設展

大人800円、大学生500円

中学・高校生300円

小学生以下無料

※特別展拝観料は常設展拝観の方は無料

※崇敬奉賛会会員無料

※終戦70年特別参拝をされた方は無料

休館日 平成27年6月24日～26日、12月26日～31日

問合せ 靖國神社社務所 03-3261-8326

初詣

平成27年(未年)の厄年表

未年生まれ(新暦)

平成15年 生まれ	昭和30年 生まれ
平成3年 生まれ	昭和18年 生まれ
昭和54年 生まれ	昭和6年 生まれ
昭和42年 生まれ	大正8年 生まれ

男性 (数え年)

平成3年生 25歳本厄
昭和50年生 41歳前厄
昭和49年生 42歳本厄
昭和48年生 43歳後厄

女性 (数え年)

平成9年生 19歳本厄
昭和59年生 32歳前厄
昭和58年生 33歳本厄
昭和57年生 34歳後厄

初詣(三が日)のご案内

祈願受付時間 8:00～20:00(4日まで)

※なお5日、6日仕事始めの会社祈願の為個人でのご祈願は受付できません。

お守の授与所 24時間開設

※なお4日以降は時間の変更がございますのでご確認ください。

詳しくは神社、またはホームページでご確認下さい。

平成26年

七五三詣ご案内

男の子

かぞえ3歳(平成24年生まれ)

かぞえ5歳(平成22年生まれ)

女の子

かぞえ3歳(平成24年生まれ)

かぞえ7歳(平成20年生まれ)

受付時間

午前9時～午後4時30分まで

ご祈禱料

お祝いのお子様

1人 3000円

2人 5000円



神社へお参りし、お子様の
健やかなご成長を祈念いた
しましょう

編集後記

この度の両陛下の行幸啓により対馬丸が全国に認知され、県外に住むご遺族も来県のきっかけとなつております。来年はいよいよ戦後七十年です。ご英霊が目指した国に近づけるように本誌も企画を思案中です。

発行 平成二十六年十月日

発行所 沖縄県護国神社

〒900-1001

沖縄県那覇市奥武山町四四番地

TEL 〇九八-八五七-二七九八

FAX 〇九八-八五七-七九九七

HP www.okinawa-gokoku.jp/

編集担当 前原 万岐

印刷所 株式会社近代美術



掲揚期間 大晦日～1月10日まで
奉納金 1灯 5000円

正月献灯のお知らせ

お正月の参道を照らし初詣の皆様を
あたたかな光でお迎えする提灯のご
奉納を今年も賜っております。皆様
のお申込みお待ち申し上げております。
詳しくはお問合せ下さい。